

浜田地区意見交換会「教えてください!備前堀のいいところ」を開催しました!

1 開催概要

水戸城東側の低湿地地帯を埋め立て、城下の商人を移した「田町越え」が行われたのが1625年。令和7年(2025年)は、「下市まち開き400年」の節目の年です。

平成14年(2002年)に都市景観重点地区に指定した「備前堀沿道地区」は、平成12年(2000年)に地元の景観推進協議会が組織され、景観まちづくりに取り組んできました。

現在、住民の高齢化が進むなど、地域の状況が変化していることから、地域住民のみならずと景観まちづくりのあり方を考えるため、茨城大学工学部都市システム工学科(久野靖広准教授、一ノ瀬彩助教及び学生の皆さん)のご協力をいただき、浜田地区意見交換会「教えてください!備前堀のいいところ」を、水戸市と備前堀景観推進協議会の共催により開催しました。

意見交換会には、公募による一般参加者13名、茨城大学の教員・学生25名、水戸市都市計画課・公園緑地課職員6名、合計44名が参加しました。その内容をお知らせします。

<募集内容>

○開催日時及び場所

- ・日時:令和6年10月24日(木) 14~16時
- ・場所:竹隈市民センター和室(水戸市柳町2-5-8)

○募集対象及び定員

- ・対象:備前堀周辺まちづくりに興味のある方
- ・定員:先着20名

○参加者募集方法

- 募集チラシを作成し、次の方法で参加者を募集
- ・備前堀景観推進協議会会員(58名)への郵送
- ・備前堀景観推進協議会役員からの声掛け
- ・水戸商工会議所様へのご案内等

2 意見交換会の概要

茨城大学3年生が調査研究の成果を発表し、そのあと、グループごとに分かれてワークショップを行いました。

(1) 調査研究発表

茨城大学学生が6班に分かれ、各調査テーマに沿って事前に備前堀の調査を行い、その調査研究成果を発表しました。参加者の皆さんは熱心に聞き入っていました。



(2) ワークショップ

グループに分かれワークショップを行いました。テーマは、「①散歩・サイクリング」、「②くつろぎ・親水」、「③イベント・産業」の3つとし、参加者はテーマごとに意見交換を行いました。地区の可能性や課題に関し、活発な意見交換が行われました。



3 「備前堀周辺がどうなると良いと思うか」について参加者の皆さんの声(アンケート等より抜粋)

- 歴史を活かしたまちづくり。
- 今は歩きづらいため、散策しやすい場所になると良い。
- 地元の人暮らしやすいまちになると良い。
- このまちをどうしていくかのビジョンが必要。そこが明確なら若い人も入ってくる。
- まちの方向性がしっかりしていれば、商店街に一般住宅が入ってしまうことはない。
- まちの歴史や地域を知るような催しがあっても良い。
- 地元の方も観光の方も集まり足をとめられる場所。
- 水戸市のひとつのスポットとなり、そこからハミングロードへも人が流れ、にぎわう下市に戻ってほしい。
- 新しい空き家を活用したお店や人が外にいる気配が生まれていくと良いと思う。
- 住んでいる人も外から来た人もまじり合うような温かい場所。
- 暮らしやすいまち。
- 来訪者がとめられる広い駐車場。
- 三の丸のような統一した堀で景観が揃ったまちなみ。
- ここを知らない人が息抜きに来てくれるような場所。
- 備前堀とハミングロードをタイアップした歴史と文化遺産の住み良いまち。(400年の歴史)
- 弘道館、大手門、坂下門、備前堀を迂回する歴史をたどる散策道路の整備。観光マップの作成。
- 観光地ではなく、暮らしやすさ重視のまち。そのために道を直してほしい。大谷石は不要。
- まちに若い人が入ると良いと思う。

4 今後の展開

(1) 参加者の意向

アンケート結果では、回答した参加者全員が内容を「良かった」と評価し、今後も参加したいという意向がわかりました。

参加者の多くは、「歩きやすく暮らしやすい環境」や「歴史を活かしたまちづくり」を望んでおり、まちのビジョンや方向性が明確であれば、若い人や新たな住民も集まるのではないかと考えている参加者もいました。また、地域に来訪した人と地元住民が交流できる「あたたかい場所」や、歴史的景観を重視した統一感のあるまちなみの維持などが求められています。

全体的な傾向として、備前堀周辺地区の在り方として、観光地化するような方向ではなく、地域の住みやすさや魅力を高めるべきという意見が多く見られました。

(2) 今後の展開

備前堀周辺地区では、空地や空き家の増加、住民の高齢化などの課題が浮かび上がっており、平成14年に備前堀沿道地区を都市景観重点地区に指定した当時とは状況が変化しています。そのため、今後は現状を踏まえた新たな景観まちづくりの在り方を検討する必要があります。

しかし、今後のまちづくりの方向性を検討するには、今回の1回の意見交換会の開催では、地域住民等のご意見の把握は十分とは言えないので、引き続き、地域住民等の声を聞く機会を設けることが重要です。継続的な意見交換会などの実施を通じて、より様々な住民の皆さんの意見を反映し、住民主体のまちづくりを育てるための基盤を整えることが必要と考えます。

また、今回は茨城大学と連携し、外部目線、若い世代目線からの意見を得ることができました。今後も、この地区に関心や興味を持つ様々な主体との連携した取組を検討していきます。

当日の様子



学生が現地調査に基づき、備前堀周辺の特徴や魅力、課題についてグループごとテーマに分かれて、発表。



学生による発表後は、発表内容も参考にしながら、「散歩・サイクリング」、「くつろぎ・親水」、「イベント・産業」の3つのテーマで、3グループに分かれて話し合い。参加者は3テーマをすべて回る形。都市計画課、公園緑地課職員も話し合いをサポート。



地域のまちづくり関係者や住民等が同じテーブルで横に並んで話し合う風景。



多様な世代が備前堀周辺の魅力や課題について熱心に議論。



最後に、テーマごとに話し合いで出た意見や提案を大学生が発表。



終了後に参加者全員で集合写真。若い世代からご高齢の方まで様々な世代が集まりました。

コラム (Column)

「田町越え」～下市・千波湖の歴史～

江戸時代に入り水戸藩では、城下町造りの一環として、慶長から寛永にかけて古千波湖の整備が行われました。

古千波湖から赤沼を経由し那珂川に流れ込んでいた流出河道は、水戸城の東から北側を囲む外堀となるように屈曲した水路に改修されました。この水路は「下町外堀」、「桜川」又は「馬場川」と呼ばれます。

城下町の拡張のため、沼地や湿地があった古千波湖東部は埋立て工事が行われ「田町」と呼ばれる「下町」が開設されました。この埋立地に接する古千波湖岸は崩れないように護岸工事が行われました。古千波湖北側も屋敷地の拡充や船着場の設置のため整備・護岸化されました。

これらの整備事業により古千波湖岸が囲い込まれ、湖沼「千波湖」が成立しました。

その成立時期は、「田町越え」と呼ばれる、前述の新開設地である「田町」へ商人らが移住させられた年である**1625年**（寛永2年）とされ、

同時に千波湖が、「千波湖(千波沼)」という名称が付いたのもこの頃と推察されています。

今年は、「田町越え」からちょうど**400年目**の節目の年なのね！



浜田地区意見交換会

参加者募集!!

教えてください!

備前堀のいいところ

地域みなさんにとって愛着のある「備前堀」。

備前堀沿いを、ふらっと行って散歩したり、休んだりでき、快適に憩える場所にしたいために何かが必要か、みなさんで一緒に考えてみませんか?

日時

令和6年10月24日(木)

14時～16時

定員

先着20名

※事前にお電話での申し込みが必要です。

※備前堀周辺より徒歩10分以内の方

プログラム

1. 学生によるリサーチ(調査結果)発表 <約45分>

※茨城大学(工学部都市システム工学科)の学生による備前堀の特徴や魅力についてのリサーチ発表

2. ワークショップ <約50分>

※備前堀の自然・ここが好き・困りごとなどみなさんと気軽に話し合おう

場所

竹原市民センター 和室

(水戸市柳町2-5-8)

問い合わせ・申し込み先

水戸市役所 都市計画課 景観室

TEL:029-232-9206

担当:小島・横井・権

参加者全員に「みと景観30選」クリアファイルプレゼント

注意事項

●参加費は無料です。竹原市民センターへの交通費等は各自ご負担ください。

●当日は早20名まで参加可能とさせていただきます。

●申し込み時に収集した個人情報、本イベントの運営に必要な範囲でのみ活用します。

●イベント中の写真を、市のホームページ等の媒体で使用する場合があります。

備前堀景観推進協議会・水戸市 共催

参加者募集チラシ